

# 大阪・奈良井遺跡

- 1 所在地 大阪府四條畷市中野三丁目
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)八月～一〇月
- 3 発掘機関 四條畷市教育委員会
- 4 調査担当者 村上 始
- 5 遺跡の種類 集落跡・祭祀遺跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代、中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

奈良井遺跡は、生駒山系から西へ派生する段丘上に立地し、東西三三〇m南北三〇〇mの範囲が、古墳時代の集落跡・祭祀遺跡、鎌倉時代から室町時代までの集落跡として周知されている。

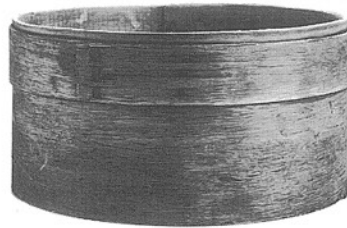
今回の発掘調査はマンション建設工事に伴うもので、調査面積は一〇〇九㎡である。検出した遺構は、掘立柱建物、土坑、溝、井戸などである。

井戸は石組みのもので、直径約三・一八mの円形を呈しており、深さは約二・九六mである。地表面から約二・四mまで逆台形状に掘り込んだ後、曲物を設置する部分を約〇・五六m掘りくぼめている。曲物は三段に積み上げ、その最上部から花崗岩の自然石を組む。年代は、出土遺物

から、一二世紀後半から一三世紀初頭頃までのものと考えられる。

石の組み方には特徴があり、まず二〇～四〇cm大の若干細長い形のを基礎に敷き並べ、次に裏込めの土を入れながら一〇～二〇cm大の様々な形のを約三〇cmの高さまで積み上げた後、再度二〇～四〇cm大の若干細長い形のを一段積んでいる。このような積み方を四回繰り返し、上部まで積み上げている。

曲物の大きさは下段に設置されたものから順に、直径四一cm高さ二一・五cm厚さ五mm、直径四五cm高さ二七cm厚さ五mm、直径五〇cm高さ二〇cm厚さ五mmである。それらの曲物のうち最下段のものに墨書が施されていた。井戸内からは、瓦器碗、白磁碗、土師器小皿、土師質羽釜、須恵質練り鉢、砥石などが出土した。



全 体

